

研究主題 現代社会をとらえる見方や考え方はぐくむ社会科学習指導の在り方

— 中学校第3学年公民的分野「わたしたちの暮らしと経済」における効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動の工夫を通して —

教諭 西山 力

研究の概要及び索引語

現代社会をとらえる見方や考え方はぐくむためには、効率と公正の観点で社会的事象を理解したことを基に、課題解決の際に必要な判断理由を明確にして結果を説明し、そのことを論述することが大切である。本研究では、中学校第3学年公民的分野「わたしたちの暮らしと経済」における効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動の工夫を通して、現代社会をとらえる見方や考え方はぐくむ社会科学習指導の在り方を追究した。

索引語： 中学校，社会，現代社会をとらえる見方や考え方，効率と公正，わたしたちの暮らしと経済

1 主題設定の理由

21世紀は知識基盤社会やグローバル化の時代であるといわれている。このような状況においては、世界や日本に関する基礎的教養を培い、国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画しようとする資質や能力を育成することが必要である。中学校学習指導要領解説社会編（平成20年9月）（以下「解説」という。）公民的分野の目標（2）には「現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる」ことが示されている。以上のように、現代社会をとらえる見方や考え方はぐくむことが求められている。

現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を身に付ける学習を行った後、それらを用いて「合唱コンクールに向けた練習計画をつくる際にどのようなことに配慮するとよいか」について考える実態調査（平成*年*月*日実施，第3学年*組*人）を実施した。その結果，効率と公正に関する適切な記述ができた生徒は*人で，不適切な記述をした生徒は*人であった。また，効率と公正に関する適切な記述ができた生徒の内訳を見ると「平等な練習の機会を設ける」や「納得できる話し合いをすべきだ」などと記述した生徒が多かった。しかし，複数の理由を挙げて説明できた生徒は少なく，一つの理由から説明した生徒が大半を占め，一面的なものの見方をする生徒が多いことが分かった。このことから，様々な観点から現代社会をとらえる見方や考え方はぐくむ必要があると考える。

そこで本研究では、「わたしたちの暮らしと経済」において、「現代社会をとら

える見方や考え方」で社会的事象を理解する学習活動を繰り返すことで、それらを広げ、活用することができる生徒をはぐくみたいと考える。そのためにまず、例示した効率と公正の観点をを用いて社会的事象を理解する学習活動を行う。そこでは、自分の考えを整理するワークシートを使い、課題解決のための判断材料となる社会的事象の利点や欠点を整理し、判断理由を明確にして、説明できるようにする。さらに、この学習を繰り返すことで、見方や考え方を広げていくようにする。次に、習得した効率と公正の観点をを用いて社会的事象を理解する学習活動を行う。生徒一人一人が事前に調べた社会的事象についての利点や欠点を基に、課題解決に必要な判断理由を選択し、論述できるようにする。

効率と公正の観点を活用した学習活動の工夫をすることで、効率と公正の観点から社会的事象を理解することができるようになり、見方や考え方をはぐくむことができると考え、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

中学校第3学年公民的分野「わたしたちの暮らしと経済」における効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動の工夫を通して、現代社会をとらえる見方や考え方をはぐくむ社会科学学習指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

中学校第3学年公民的分野「わたしたちの暮らしと経済」において、効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動を工夫すれば、それらを活用して課題解決ができるようになり、現代社会をとらえる見方や考え方をはぐくむことができるであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 現代社会をとらえる見方や考え方をはぐくむとは

「現代社会をとらえる見方や考え方」は、従前より「諸事象をとらえる概念的な枠組み」と示されてきた。今回の改訂では、見方や考え方について、「対立」、「合意」、「効率」、「公正」などを挙げて、「現代社会をとらえる概念的な枠組みの基礎となるもの」であるとし、それを養うことが公民的分野の目標に示されている。江口勇治氏は、「公民的分野が自分と社会の問題を考え、解決しようとする意思を育てることであるとすれば、それに適した考え方という道具を伝えることは当然である。」と述べている。ここでいう道具が、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」などの観点のことであり、それらを用いて社会的事象を理解していくことの重要性が指摘されている。更に解説では、様々な見方や考え方と関連付けて理解した内容や考え判断した過程や結果を、まとめさせたり表現させたりするように指導することが学習のねらいとして示されている。これからの社会を生きる生徒にとって、見方や考え方を身に付けさせることは不可欠なことと考える。

これらのことから、本研究では、現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくむとは、様々な観点で社会的事象を理解したことを基に、課題解決の際に必要な判断理由を明確にして結果を説明し、そのことについて論述できるようにすることと捉えた。

イ 現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくむ過程

本研究では、現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくむ過程を図1のように捉えた。

まず、課題解決に必要な事実について調べたことを利点と欠点に分類しながら整理する。また、他者の発表から獲得した新たな事実を追記することで、社会的事象を理解するための事実を増やしていきけるようにする。次に、整理した事実を効率と公正の観点と関連付けて考察し、課題を解決するための判断理由を明らかにする。さらに、明らかにした判断理由を整理し、自分の考えを説明する。その際に、利点だけでなく、その欠点についても説明できるようにする。また、小集団での話合いや全体での発表から他者の判断理由を知ることによって、課題に関わる社会的事象についての見方や考え方を広げられるようにする。

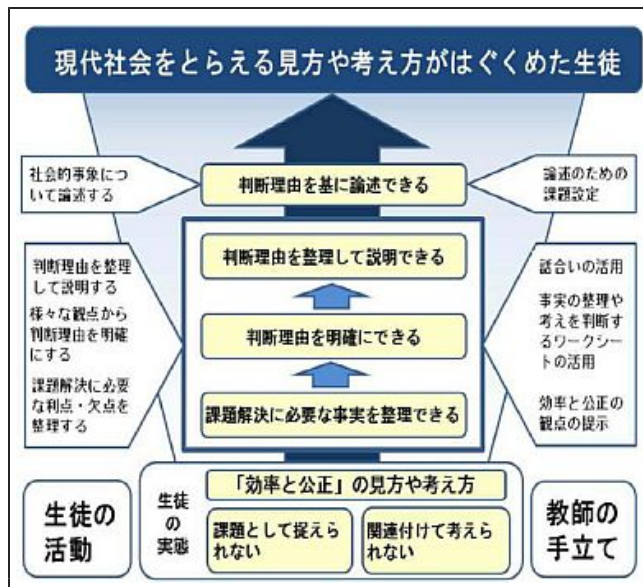


図1 現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくむ過程

明らかにした判断理由を整理し、自分の考えを説明する。その際に、利点だけでなく、その欠点についても説明できるようにする。また、小集団での話合いや全体での発表から他者の判断理由を知ることによって、課題に関わる社会的事象についての見方や考え方を広げられるようにする。

そして、課題解決に必要な判断理由を明確にして説明する活動を生かして、自分の考えを論述する。このように学習活動を工夫していくことで、現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくむことができると考える。

ウ 研究主題に到達した生徒の姿

現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくまれた生徒の姿を、表1のように捉え、ワークシートや意識調査での記述を分析し、手立てについて検証していく。

エ 効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動の工夫について

橋本康弘氏は、対立と合意を「物事を決定するまでの過程」、効率と公正を「物事を決定する判断基準」と述べている。

対立と合意は、生活の中でも体験することが多く比較的捉えやすいが、効率と公正は、生徒にとって聞き慣れない用語であり、捉えることが困難な見方や考え方である。また、経済に関する学習は、物事を決定するための判断と関わる内容を取り扱うことが多い。そこで、本研究では、効率と公正の観点で

表1 現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくめた生徒の姿

- a 課題解決に必要な事実を整理することができる
- b 様々な観点から判断理由を明確にすることができる
- c 明確にした判断理由を整理して、自分の考えを説明できる
- d 説明するために整理した判断理由を基に、自分の考えを論述できる

社会的事象を理解する学習活動を工夫することで、見方や考え方を広く深く成長させていこうと考えた。その際、無駄を省くという意味から、効率については「お金・もの・時間・労力」、特定の人 が得をしていないかという意味から公正については「手続き・機会・結果」の七つの用語を示し、生徒がより具体的な観点から理解していけるようにする。

(2) 主題に迫るために

ア 生徒の実態について

図2は「現代社会をどう見るのか」の学習後に行った「合唱コンクールに向けた練習計画をつくる際にどのようなことに配慮するとよいか」について考えて、記述した実態調査の結果である。効率と公正に関する適切な記述ができた生徒は*人いたが、図3に示す「適切な記述の内訳」を見ると「平等な練習の機会を設ける（公正な機会）」や「納得できる話し合いをすべきだ（公正な手続き）」などと記述する生徒が多かったことが分かる。また、効率の観点から理由を挙げられた生徒は少なかった。このことから、効率の観点から考えるよりは公正の観点で判断理由を考えた生徒が多いことが分かる。さらに、複数の理由から自分の考えを説明できた生徒は少なく、一つの理由からのみ説明した生徒が多かった。現代社会を捉えるには、多面的に社会的事象を見ていくことが大切であるが、本学級では、一面的に捉えている生徒が多いことが分かる。

実態調査については掲載を控えさせていただきます。

図2 効率と公正に関する実態調査

(平成*.*. *実施 * * * * * 中学校第3学年*組*人)

実態調査については掲載を控えさせていただきます。

図3 適切な記述の内訳

(平成*.*. *実施 * * * * * 中学校第3学年*組*人)

イ 効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動の工夫について

以下のように、効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動を工夫する。

(ア) 例示した効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解するためのワークシートの工夫

a 社会的事象の利点や欠点に分類して整理する活動

課題解決に必要な事実を整理するために、ワークシートに社会的事象について調べたことを利点や欠点に分類して記入する欄を設ける。その欄には、教科書や資料集、教師が準備した資料を活用して調べたことを記入し、他者の発表から新たに獲得した事実を追記しながら、学習課題を解決するために必要な事実を増やし、整理していく。また、利点だけでなく、その欠点にも着目して分類する。これらのことから、課題解決に必要な事実を整理することができると思う。

b 説明に必要な判断理由を明確にする活動

生徒が様々な観点から判断理由を明確にするために、図4に示したような、効率と公正の観点と関連付けて考察したことを記入する欄を設ける。課題を解決するための判断理由を明確にすることができるように、「どうして？」の欄に事前に整理した利点や欠点を記入する。また、「観点」の欄には、資料1で示した「補助シート」の観点から判断理由と関連付けて選択した用語を記入する。さらに、「補助線で表そう」の欄には、判断した結果を直線上に表し、その位置によって自分が判断した結果を明示する。これらのことから課題を解決するために、様々な観点から判断理由を明確にすることができると思う。

- c 明らかにした判断理由を整理し、自分の考えを説明する活動
- 図5に示したように、判断理由を整理して、説明したいことを記入する欄を設ける。利点だけでなく、その欠点についても説明できるように判断理由を利点と欠点に分類して箇条書きで記入する。また、小集団での話し合いや全体での発表から他者の判断理由を知る。これらのことから、明確にした判断理由を整理して、自分の考えを説明できると考える。

- (4) 習得した効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解するために自分の考えを論述する活動

「今後『こうあってほしい』と考えるコンビニエンスストアの姿について書いてみよう」の課題を設ける。図5のワークシートを基に、利点だけでなく、欠点に着目して論述することで、習得した効率と公正の観点を用いて社会的事象について理解する。このことから、説明するために整理した判断理由を基に、自分の考えを論述できると考える。

(3) 授業の実践

ア 単元の指導計画

単元計画に繰り返す学習から論述までの流れを資料2(p.6)に位置付けた。

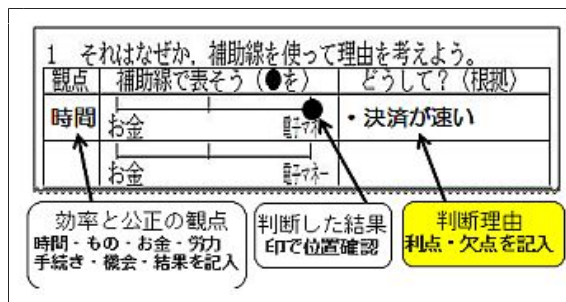


図4 判断理由を明確にするためのワークシート

資料1 効率と公正の観点を例示した補助シート

効率と公正について	
効率：無駄を省くこと	
効率の観点	身近な問題を見るための主な内容
時間	時間短縮になっているか（時間を上手に使えているか）
もの	建物の大きさや場所、売れる商品か
お金	高価でないか、持っているお金に見合っているか
その他	無駄を省ける観点なら出してみよう！ 人（働きすぎでないか、人数）、場所など
公正：特定の人が得をしないという考え方	
公正の観点	身近な問題を見るための主な内容
手続き	みんなで参加できそう？
機会	みんなができる（行ける・見れる・もらえる？）
結果	みんなに平等？（一部だけ得していない？）

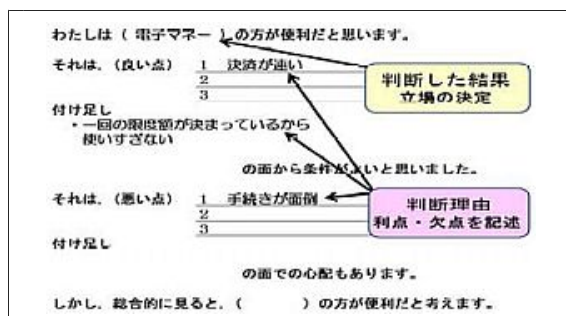


図5 説明したいことを整理するワークシート

資料2 本単元の指導計画

<p>1 暮らしと経済 2 目標</p>	<p>○ 現在の消費生活に関する諸問題に着目し、現代社会をとらえる見方や考え方を生活に生かそうとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)</p> <p>○ 暮らしと経済について、「効率と公正」の観点を活用し、多面的・多角的に考察し、社会的事象に対して自分の考えを説明できる。 (社会的な思考・判断・表現)</p> <p>○ 消費生活に関する課題や消費者問題、流通について、事例や統計資料を収集し、読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。 (資料活用の技能)</p> <p>○ 身近な生活をもとに自分たちの生活と経済との関連に気付くとともに、かきこい消費者のあり方や消費者としての自立、流通について学習し、消費生活の意義について理解できる。 (社会的事象についての知識・理解)</p> <p>3 単元の指導計画</p>	
<p>1</p>	<p>学習活動・内容</p> <p>・コンビニエンスストアの開店場所を考える。 コンビニエンスストアをどこに開店させたらよいだらう。</p> <p>・効率と公正の観点から、考えを説明できるように記述する。</p> <p>・単元を通しての学習課題をつくる。 わたしたちが便利な生活をするためにコンビニエンスストアはどんなことに気を付けている？</p>	<p>身に付けさせたい効率と公正の観点と記述例</p> <p>・コンビニエンスストア開店場所についての利点・欠点 五つの場所から一か所を選択し、その判断理由を記述する。</p> <p>・本時は自分で選択した観点を確認 【時間・お金・もの・労力、手続き・機会・結果】</p> <p>・疑問点や思ったことを整理して課題を設定 ・電子マネーって？ ・本当に欲しいものを買ってる？ ・オンラインショッピングって？</p>
<p>2</p>	<p>・本時の課題を確認する。 電子マネーで買い物をするときのメリットとデメリットを考えよう。</p> <p>・電子マネーのメリットとデメリットについて、調べる。</p> <p>・課題についてまとめる。</p> <p>●効率と公正の観点で考えさせたいこと お金と電子マネーでは、どちらが便利？</p> <p>・効率と公正の観点から、考えを説明できるように記述する。</p> <p>・再度自分の考えを整理し、課題についての考えをまとめて発表する。</p>	<p>・電子マネーの利点・欠点(キーワード) 利点：お金がいらぬ、支払いが簡単、ポイント貯まる 欠点：金銭感覚なくなる、残高が分かりにくい、使える店と使えない店がある。契約に時間が必要など 本時で指定した三つの観点から電子マネーについて考える。 【お金・時間、機会】</p> <p>お金：お金がいらぬ、残高が分かりにくい 時間：支払いがすぐ済む、契約まで時間がかかる 機会：ポイント貯まる、使える店と使えない店</p> <p>↓ 自分の判断から便利・不便を決定</p> <p>・学習のまとめ(説明)として 利点から：お金をもたなくてよい、支払いがスムーズ、ポイントがたまってうれしい 欠点から：残高が分かりにくい、契約に時間がかかる、面倒、使えるところ限られる</p>
<p>3</p>	<p>・本時の課題を確認する。 コンビニは安全な商品やサービスを売するためにどんな努力をしているのだろうか。</p> <p>・様々なサービスから、商品の安全性、広告のメリット、デメリットについて調べる。</p> <p>●効率と公正の観点に立って考えさせたいこと 広告は便利？</p>	<p><調べる内容、話合いの内容は時間によって変わるが、学習の方法と流れは2時間目と同じ></p> <p>・本時で指定した三つの観点から広告について考える。 【時間、もの、結果】</p>
<p>4</p>	<p>・本時の課題を確認する。 コンビニの商品はどのようにわたしたちの手に届くのだろうか。</p> <p>・コンビニエンスストアの商品の流通経路を図に表すとともに、オンラインショッピングのメリットとデメリットについて調べる。</p> <p>●効率と公正の観点に立って考えさせたいこと オンラインショッピングは便利？</p>	<p><調べる内容、話合いの内容は時間によって変わるが、学習の方法と流れは2時間目と同じ></p> <p>・本時で指定した四つの観点からオンラインショッピングについて考える。 【もの・お金・労力、手続き】</p>
<p>5</p>	<p>・本時の課題を確認する。 ●効率と公正の観点に立って考えさせたいこと コンビニの24時間営業は必要だろうか。</p> <p>・24時間営業のメリットとデメリットについて、調べる。</p> <p>・本時の感想をまとめる。 今後「こうあってほしい」と考えるコンビニエンスストアの姿について書いてみよう。</p>	<p><学習の方法は論述の前までは2から4時間目と同じ></p> <p>・本時は自分で選択した観点からコンビニエンスストアの24時間営業について考える。 【時間・お金・もの・労力、手続き・機会・結果】</p> <p>・学習のまとめを生かして、論述する。 自分で判断した結果(必要か不必要か)について、説明で用いた利点・欠点を活用して今後のコンビニエンスストアのあるべき姿について論述する。</p>
<p>※第2時～第5時は、課題が変わるが、同じ学習の仕方での学習を進めたことを示している。</p> <p>繰り返す学習活動： 論述する学習活動： 効率と公正から考える課題： 予想される生徒の記述： ← 繰り返す過程</p> <p>【 】 効率と公正の観点</p>		

イ 本単元の記録

本単元における学習の記録は、資料3のとおりである。

資料3 本単元の記録

学習内容	全体の様子	抽出した生徒の様子		
		生徒A	生徒B	生徒C
抽出した生徒	<ul style="list-style-type: none"> — 生徒A：事前調査では、課題について判断理由を挙げて説明することができた。 — 生徒B：事前調査では、社会的事象についての利点を自分の経験から記述することができた。 — 生徒C：事前調査では、社会的事象についての利点や欠点を友達との話合いから記述することができた。 			
1 コンビニエンスストアの開店場所について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアの開店場所を立地条件や資料を参考に意欲的に調べ、開店場所を考えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開店させたい場所について、多くの利点・欠点を挙げた。また、効率と公正の観点を用いて説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開店させたい場所について、効率の観点からその根拠を二つ挙げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開店させたい場所について、効率の観点からその根拠を一つ挙げた。
学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・便利な生活をするためにコンビニエンスストアの取組について考え、課題を設定することができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアの様々なサービスを挙げて、課題づくりに積極的に参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアの利点を、数多く挙げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題となるようなことを書くことができなかった。
2 ものを購入するときの収支の関係について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを購入する際の収支の関係と電子マネーの利点と欠点について、意欲的に調べていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者にアドバイスをし、友達の意見をワークシートに追記した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞き、調べたこと以外について、ワークシートに追記した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子マネーの利点と欠点について友達の意見を参考に記述した。
お金と電子マネーではどちらが便利か効率と公正の観点で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された効率と公正の三つ観点【お金・時間・機会】から事前に調べた電子マネーの利点と欠点を挙げて、資料を参考に考えをまとめ、説明していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率と公正の両方から課題について説明した。観点について利点と欠点を対比させて挙げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率と公正の観点についての根拠から説明できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利点と欠点から効率と公正の観点を挙げることができた。根拠を挙げ説明することができなかった。
3 安全な消費生活を送るための取組について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な消費生活を送るために気を付けなければならないことや広告の利点と欠点について意欲的に調べていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習を積極的に行い、調べ学習中は、資料をじっくり読むなど、積極的に学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利について積極的に調べたが、利点と欠点については調べられず、友達の意見を追記した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方にも慣れ、広告の利点と欠点を挙げるとともに、友達の意見を追記した。
広告は便利なものか効率と公正の観点で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された効率と公正の三つ観点【時間・もの・結果】から、事前に調べた広告の利点と欠点を挙げて、資料を参考に考えをまとめ、説明していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を取り入れ、多くの根拠を用いて説明することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広告の利便性について友達の意見を数多く取り入れて説明することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広告の利便性について効率と公正の観点から根拠を挙げて説明できた。
4 流通のしくみについて、調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の流通について図にまとめるとともに、オンラインショッピングの利点と欠点について意欲的に調べていた。 ・合理的な流通経路についても関心を持ち、価格の動きについても考えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な流通経路を取り上げ、図にまとめた。また、資料を活用してオンラインショッピングの利点と欠点も数多く挙げることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通経路を関連図にまとめた。またオンラインショッピングの利点と欠点も数多く挙げることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通について図にまとめたり、オンラインショッピングの利点と欠点を前時より多く挙げることもできた。
オンラインショッピングは便利なものか効率と公正の観点で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された効率と公正の四つ観点【もの・お金・労力・手続き】から事前に調べたオンラインショッピングの利点と欠点を挙げて、自分の考えをまとめ説明していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率と公正の両方から課題について説明した。観点ごとに対比させて判断理由を挙げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から根拠を挙げるとともに、友達の意見を数多く取り入れて説明できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを取り入れて根拠を挙げて、自分の考えを説明できた。
5 コンビニエンスストアの24時間営業の必要性について効率と公正の観点で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・効率と公正の観点からコンビニエンスストアの24時間営業は必要か不必要か資料をもとに調べ、自分なりの考えで説明していた。 ・また、今後こうあってほしいというコンビニエンスストアの姿について、意欲的に論述していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・五つの観点から必要である判断理由を挙げて、説明した。 ・様々な欠点を改善したコンビニエンスストアの姿について論述することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・五つの観点から必要である判断理由を挙げて、説明した。 ・利点や欠点をあげて今後のコンビニエンスストアの姿を論述することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの観点から必要である判断理由を挙げて、説明した。 ・今後こうあってほしいコンビニエンスストアの姿について書くことができた。

※太字は、現代社会をとらえる見方や考え方がはぐくまれた姿を見ることができた点を示した。

(4) 授業の分析と考察

ア 効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動の工夫について

(ア) 例示した効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解するためのワークシートの工夫

a 社会的事象の利点や欠点に分類して整理する活動

表2から、課題を解決するために必要な事実を整理して、数多く記述できたことが分かる。それは、利点や欠点を分類し整理して記入する欄を設けたことで、一面的でない社会的事象の理解ができるようになったからだと考える。このことにより、課題解決に必要な事実を整理するための手立てとして有効であったと考える。

b 説明に必要な判断理由を明確にする活動

資料4は、課題を解決するための判断理由を記述した例である。表3から課題を解決するために様々な観点から判断した理由を明確にして、多くの観点と判断理由を関連付けて記述できたことが分かる。それは、効率と公正の観点と関連付けて考察したことを記入する欄を設けたことで、自分の判断した結果を明らかにすることができるようになったからだと考える。このことにより、様々な観点から判断理由を明確にするための手立てとして有効であったと考える。

c 明らかにした判断理由を整理し、自分の考えを説明する活動

資料5は、判断理由を利点や欠点に分類して整理した記述例である。表4から明確にした判断理由を整理し、利点や欠点を数多く用いて自分の考えを説明できたことが分かる。また、欠点にも目を向けて説明できた生徒が増えたことが分かる。それは、判断理由を整理して、説明

表2 社会的事象の利点・欠点についての記述量の変化

(平成*. *. *, 平成*. *. *実施 * * * * * **中学校第3学年*組*人, 事前・事後調査の実施日については、以下同様である。)

	事前	事後	比較
利点	*	*	+ 3.1
欠点	*	*	+ 8.2

※表中の数値は、全体の平均を表す。

資料4 判断理由を明確にするためのワークシートの記入例

1それはなぜか補助線を使って理由を考えよう。

観点	補助線で表そう(●を)	どうして?(根拠)
時間		支払いがスムーズ
お金		現金がなくても使える
機会		使えないところがある

表3 社会的事象を判断するために用いた観点数

	事前	事後	比較
全体の平均	*	*	+3.7
生徒A	*	*	*
生徒B	*	*	*
生徒C	*	*	*

資料5 説明したいことを整理するワークシートの記入例

2友達に説明できるように、考えを整理してみよう。

わたしは(電子マネー)の方が便利だと思います。
それは、(良い点) 1 支払いの時スムーズになる
2 現金がなくても使える

付け足し
・どんな人でも使える、支払いの時、ミスがない
の面から条件がよいと思いました。

また、(悪い点) 1 電子マネーの使えない場所がある
2 残高が分からない

付け足し
・使いすぎてしまう
の面での心配もあります。
総合的に見ると、(電子マネー)の方が便利だと考えます。

表4 課題を説明する際に挙げた利点・欠点の記述量の変化

	利点			欠点		
	事前	事後	比較	事前	事後	比較
平均	*	*	+3.2	*	*	+5.3
生徒A	*	*	*	*	*	*
生徒B	*	*	*	*	*	*
生徒C	*	*	*	*	*	*

表5 論述する際に利点・欠点を記述できた生徒数

	事前	事後
利点・欠点を挙げて論述できた	*	*
利点・欠点を挙げて論述できない	*	*

したいことを記入する欄を設けたことで課題に関わる社会的事象についての見方や考え方を広げられたからだと考える。このことにより、明確にした判断理由を整理して、自分の考えを説明するための手立てとして有効であったと考える。

(イ) 習得した効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解するために自分の考えを論述する活動

資料6は習得した効率と公正の観点を用いて自分の考えを論述した記入例である。表5(p.8)から、説明するために整理した判断理由を基に、自分の判断した結果を論述できた生徒が増えたことが分かる。それは「今後『こうあってほしい』と考えるコンビニエンスストアの姿について書いてみよう」の課題を設け論述したことで、習得した効率と公正の観点を用いて社会的事象について理解することができるようになったからだと考える。このことにより、説明するために整理した判断理由を基に自分の考えを論述するための手立てとして有効であったと考える。

イ クラス全体の変容

表6や図6(p.10)から、多くの生徒が効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解できたことが分かる。それは、例示した効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解するためのワークシートを工夫したり、習得した効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解するために、自分の考えを記述したりする活動を行うことで、課題解決に必要な事実を整理して判断理由を明確にし、それらを整理して説明、論述できるようになったからだと考える。このことにより、効率と公正の観点から社会的事象を理解する学習活動を工夫することは、現代社会をとらえる見方や考え方はぐくむための手立てとして有効であったと考える。

資料6 習得した効率と公正の観点を用いて自分の考えを論述した記入例

<p>今後「こうあってほしい」と考えるコンビニエンスストアの姿について書いてみよう。</p> <p>わたしは、「近所迷惑にならないコンビニ」であってほしいと思う。 <u>なぜならコンビニは、「いつでも欲しいものが買える」「夜の防犯になる」等のメリットがある。しかし、「夜間、騒音がうるさい」「ゴミのポイ捨てが多い」「電力をたくさん使う」などのデメリットもあるからだ。</u> このようなことから考えて、コンビニは近所の迷惑になっていると思う。だからわたしは、コンビニは近所迷惑にならない便利なコンビニであってほしい。</p> <p>————— 効率と公正の観点から導いた根拠</p>

表6 事前調査と事後調査における見方や考え方の変容の様子

(平成*.*.*, 平成*.*.*実施 *****中学校第3学年*組*人)

実態調査については掲載を控えさせていただきます。

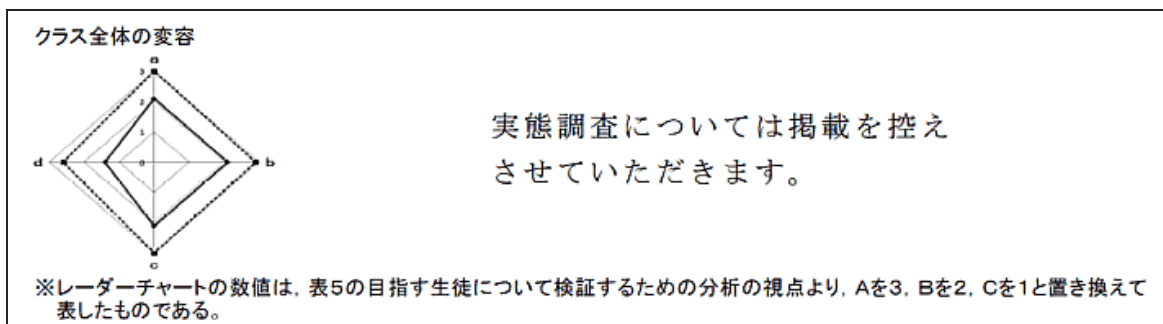


図6 クラス全体の変容及び抽出した生徒の変容

(事前調査 平成*. *.* *, 事後調査 平成*. *.* *実施 **** * 中学校第*学年*組*人)

ウ 抽出した生徒の変容

生徒Aは、社会的事象についての利点や欠点を資料や聞き取り調査から調べ、多面的に論述することができるようになった。生徒Bは、利点や欠点を調べる活動から説明する活動を繰り返したことで、課題について利点だけでなく、欠点も挙げて説明できるようになった。生徒Cは、「補助シート」を活用して学習を進めることで、調べて判断理由を明確にして説明することができるようになった。これらのことから、現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくむことができたと考える。

5 研究のまとめ

中学校第3学年公民的分野「わたしたちの暮らしと経済」における効率と公正の観点で社会的事象を理解する学習活動の工夫を通して、現代社会をとらえる見方や考え方ははぐくむ社会科学習指導の在り方を追究した結果、次のようなことが明らかになった。

- (1) 例示した効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解するためのワークシートを工夫することは、課題解決に必要な事実を整理し、判断理由を明確にして、自分の考えを説明するための手立てとして有効であった。
- (2) 効率と公正の観点を用いて社会的事象を理解する活動を繰り返し、課題解決に関わる社会的事象についての見方や考え方を広げたことは、自分の考えを論述するための手立てとして有効であった。

6 今後の課題

- (1) 政治や国際社会の諸問題を扱う単元でも、効率と公正の観点を用いて、社会的事象を理解する学習活動を行う。
- (2) 自分が判断した結果についての根拠を精選し、簡潔に説明したり、論述したりすることができる手立てを工夫する。

<引用文献>

文部科学省 「中学校指導要領解説社会編」 平成20年9月

帝国書院 「中学校社会のしおり【2010年1月号】」 平成21年1月

堀内一男等編著 「中学校教育課程講座社会」 ぎょうせい 平成21年1月